

|        |               |                |          |
|--------|---------------|----------------|----------|
| 基礎看護学Ⅰ | 基礎看護学<br>(実習) | 2単位<br>(135時間) | 配当：1～2年次 |
|--------|---------------|----------------|----------|

### 基礎看護学実習の位置づけ

実習での経験を通して看護することの意味を考え、それを看護観につなげていくための実習とする。また、看護実践に必要な基礎的能力を身につけ、それを専門領域への学習へつなげていく実習とする。

|          | ねらい  | 実習目標  |
|----------|--|---|
| 基礎看護学実習Ⅰ | 実際の看護場面を見学することにより、入学時に漠然ともっている看護のイメージを具体化していくための実習とする。学習した看護の概念に関する知識が実践とつながり、イメージ化でき、その後の看護学や関連科目と結びつけた考えができるようになる。                                 | 1. 看護活動を見学し、看護とは何かを具体的に考えることができる。   |
| 基礎看護学実習Ⅱ | 1人の患者を初めて受け持ち、その対象に関心をもち続け、苦痛やニーズをなんとかしようとしてコミュニケーションを図り、手を差し伸べる。その関わりの中でリフレクションを行い、自己の気持ちや患者のニーズに気づき、次への関りを考える。このように看護の基本姿勢である関心を寄せることを通して看護の基礎を学ぶ。 | 1. 受け持ち患者に関心を寄せ、コミュニケーションがとれる。<br>2. 受け持ち患者に必要な何かを考えられ、手が差し伸べられる。<br>3. 体験をリフレクションし、自己の気持ち、患者のニーズが考えられる。  |
| 基礎看護学実習Ⅲ | 人間関係を形成しながら、患者の健康問題の解決に向かっていくプロセスを学ぶ。その過程の中には、患者に関わる中で得た情報を統合させ、患者の全体像を捉え、看護上の問題を抽出し、看護計画を立案することが含まれ、それによってよりよい援助が実践できることを学ぶ。                        | 1. 受け持ち患者との関わりを繰り返す中で対象を理解する。<br>2. 受け持ち患者にとって必要な看護援助を計画、実施、評価することで、よりよい援助が考えられる。<br>3. 体験をリフレクションし、自己への気づき、患者への影響が考えられ、自己の関わりの方角性が考えられる。<br>4. 専門職業人に必要な姿勢、態度が何が考えられる。 |
| 実習病院     | 京都第二赤十字病院  |   |